

## 社会貢献

建学の理念である仏教精神に基づき、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、多様な活動を時代に即して行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、社会に貢献できる人材を育成しております。

佛教大学は、1953年に関西初の通信教育課程を設置、1984年に生涯学習の拠点として四条センターを設置するなど、学術研究の成果を地域社会に還元することに早くから努めてまいりました。さらに、臨床心理学研究センターによる臨床心理相談事業、「みやこ子ども土曜塾」や学校支援ボランティアなどによる地域の学校園との交流、学部、総合研究所、宗教文化ミュージアムや福祉教育開発センターなどが開催する種々の講演会や公開講座などを行っております。

また、自治体や地域団体などと連携協定を結び、大学の有する知的資源を積極的に活用し、地域振興のための様々な活動を協働で行い、積極的に地域社会との交流を推進しております。

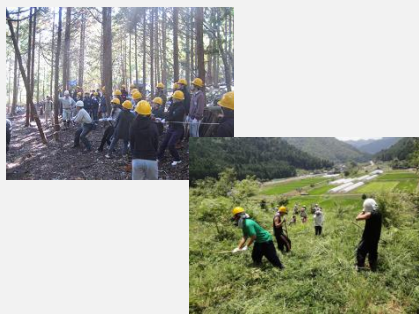


## 京都モデルフォレスト活動

本学と地域連携協定を結ぶ南丹市美山町は、「コミュニティキャンパス」として地域全体をキャンパスと見立て「地域に学ぶ、地域で学ぶ」をモットーに、学びと社会貢献を一体化させた様々なフィールドワークを行っております。

2008年2月、「森林の利用保全に関する協定」に調印し、三共精機株式会社、美山町宮脇地区、南丹市、京都府および京都モデルフォレスト協会と協働で「つながりの森づくり」をコンセプトとして活動を始めました。

2008年春、活動の中心となる荒れた斜面地に昔の里山の景観の復元を目指し、植生のバランスを考慮して広葉樹を中心に植樹し、以来、地元や関係団体の協力のもと、夏の下草刈り、秋の間伐、春の枝打ちや植樹等を中心とした活動に加え、伐採木の整理、環境学習、椎茸の原木づくりと伏せ込み、間伐材を利用した山道整備といった活動も展開し、活動を通じて、地元や三共精機社員様と本学学生・同窓生・教職員との交流を深めている。



## モデルフォレスト活動への想い

2008年春から、ゼミ生や留学生を連れて参加しています。都会で育った学生たちは、森づくりに欠かせない雑草の除去がどんなに大変かを身に染みて実感し、また地元の人や社会人との交流によって多くのことを学んでいます。この活動に参加し、国産木材の活用法について調べ、その問題点と今後の展望を考察して卒論をまとめたゼミ生もいます。

一方留学生たちは、「日本」というと、東京のようなメガロポリスや、電子機器・自動車といった産業や、京都市に代表される都市的伝統文化しか知らないもので、美山に来て中山間地域の風景や暮らしに接すると、大きなカルチャーショックを受けます。「こんな日本があったのか」というのが彼らの第一印象です。そして活動に参加するなかで、東アジアの森林問題全般や、自国の中山間地域振興の課題に思いいたします。宮脇地区は、そうした学びの場としてもたいへん重要なのです。



社会学部教授  
野崎 敏郎



## 活動データ

### ◆企業・団体

名称：学校法人佛教教育学園 佛教大学  
所在地：〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96  
担当部署：研究推進部社会連携課

### ◆協定

締結年月日：2008年2月5日  
協定メンバー：三共精機株式会社、  
みやわき Billy (南丹市美山町宮脇地区)  
公益社団法人京都モデルフォレスト協会  
南丹市、京都府

### ◆活動

フィールド所在地：南丹市美山町宮脇  
面積：205 ha

